

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 2023年7月のごう雨を体けんして 」

熊本県 山都町立矢部小学校 3年 出口 ^{でぐち} ^{みる}

2023年7月3日の朝に1時間に70ミリ以上もの雨がふりました。わたしは、とてもこわくなりお父さんとお母さんと話しあってひなん所にひなんすることに決めました。

家の前をながれている田んぼと田んぼの間の川がはんらんしました。わたしたちが、ひなん所に向かうと中の道は、川の水があふれていたり、道路の横にある水路からも、水があふれたりしてたいへんでした。ひなん所に着くと、わたしたちのほかにも1けんしかひなんしていませんでした。わたしは、2けんしかひなん所にいないなんて、少なくてびっくりしました。ひなん所からは、川が見えて、ゴウゴウとすごい音が聞こえてきて見ていると川がけずられて土しゃくずれがおきたり、大木や大きな岩がながれてきていました。

2時間ほどたって雨が弱まってきたので、家に帰りましたが、家にもうすぐ着くというときに、ひなん所に行く途中に通ってきた道がくずれていたのです。でも遠まわりになるけれど、ほかにも家につうじる道があり、その道は、くずれていなかったのよかったです。家の前まで来ると、家の前の田んぼが大きな川になっていました。家の後ろには山と池があります。山は土しゃくずれがおきていないかなあとドキドキしていましたが、だいじょうぶでした。池には、金魚がいて、ながされていないかと心ばいでしたが見に行ってみると、数ひきながされていてとてもかなしかったです。

やがて朝になり、雨は、おさまりました。家の前の田んぼを見てみると、大きな岩や太い木があり、そこが田んぼだったことがしんじられませんでした。毎年、つゆじきには大雨がふりますがこんなにふったのははじめてです。川の上のほうで、太陽光パネルを作る工事がはじまっていて、たくさん木がきられています。もしかしたら、こんなに川に水があふれたのは、それが原因かもしれません。そしてこれほどのりょうの雨がふったのは地きゅう温だん化のえいきょうもあると思うので、自分の生活のことも考えました。

わたしがこのごう雨でかんじたことは2つあります。1つ目は、ひなんするなら早くするということです。水につかって見えない道路を通るのはきけんすぎます。2つ目は、ひなんしないなら家でおとなしくするということです。そのためにぼうさいグッズをじゅんびしておこうと決めました。こわくて、もうにどとこのようないさいがいはおきてほしくないけれど、この体けんから学ぶことができました。